



市民公開講座 田川の医療を 考える夕べ

田川市立病院は、田川地域住民の医療を守ることを使命としています。そのために「市立病院の果たすべき役割」と、その要となる「最新のがん治療」について、10月4日田川青少年文化ホールで、市民公開講座を開催し、300人を超える参加者が訪れました。



▲九州大学大学院消化器・総合外科の前原喜彦教授

「最新のがん治療」

九州大学大学院消化器・総合外科の前原喜彦教授により、「最新のがん治療」について特別講演が行われました。前原教授からは、今、日本で行われている最先端のがん治療について、写真や映像を利用した説明が行われました。がんによる死亡者数が県内ワースト1ということもあり、参加者たちは、真剣に耳を傾けていました。

また、医師の人間としての責任感や倫理観の必要性、また、患者に触れ、患者に沿うことの大切さを訴えていました。さらに前原教授は、外科医に求められる12か条を作成し、大学の医師や学生に示しているということでした。参加者たちからは「大変わかりやすく1時間があっという間でした」という感想が数多く聞かれました。

「市立病院のこれからの役割」

齋藤貴生病院事業管理者が、①新しい出発に向けて②市立病院の現状と課題③今後の方向性④市民とともにというテーマで講演を行いました。講演内容は次の通りです。

①新しい出発に向けて
市立病院は経営形態を地方公営企業法全部適用に変え、病院事業管理者を置いて新しく出発することになりました。市立病院は、田川市郡の住民の医療を守るため、住民が必要とする医療を確保し提供することを目指します。

②市立病院の現状と課題
二つの大きな課題があります。第1は、田川保健医療圏では、がん、脳血管疾患、心疾患の死亡率が、福岡県の13保健医療圏の中で最も悪い状況にあります。市立病院は、これらの疾患の患者さんの僅か3〜6%にしか医療を提供できていません。

第2は、市立病院の基盤が脆弱になっていることです。交通網の不備、資金の不足、医療機器の老朽化、医師数の減少、経営力の不備などです。特に重要なのが資金の不足であり、平成11年の病院新築以後、高額な建築費に起因する過大な償還金が発生し、併せて建築費を除く繰入金金が過小なため、病院は厳しい資金不足の状況にあります。このままいくと、病院は資金面で危機的状況に陥ることが予測されます。

③今後の方向性
三つの再生策を実行していきます。第1は、病院の基盤整備です。資金の緊急

	全国	福岡県	13医療圏	福岡・糸島	田川(ワースト)
高齢化率(%)	20.1	19.8	15.5	26.3	(2)
出生数(人口千対)	8.4	8.7	9.1	8.4	(9)
死亡数(人口千対)	8.6	8.5	6.5	13.7	(1)
産後死亡数(出生千対)	9.8	4.8	5.0	6.0	(2)
悪性新生物*	258.3	273.4	216.5	401.5	(1)
心疾患*	137.2	110.7	81.6	167.1	(3)
脳血管疾患*	105.3	90.7	61.1	157.0	(1)
肺炎*	85.0	88.0	65.3	187.1	(1)
医師数	206.1	268.5	322.2	191.1	(7)
*死亡数(人口10万対)					平成17年度
生活保護受給者(%千分率)					田川医療圏 107

▲田川医療圏の状況を数値で表し、がんによる死亡者数が県内ワースト1であること示唆

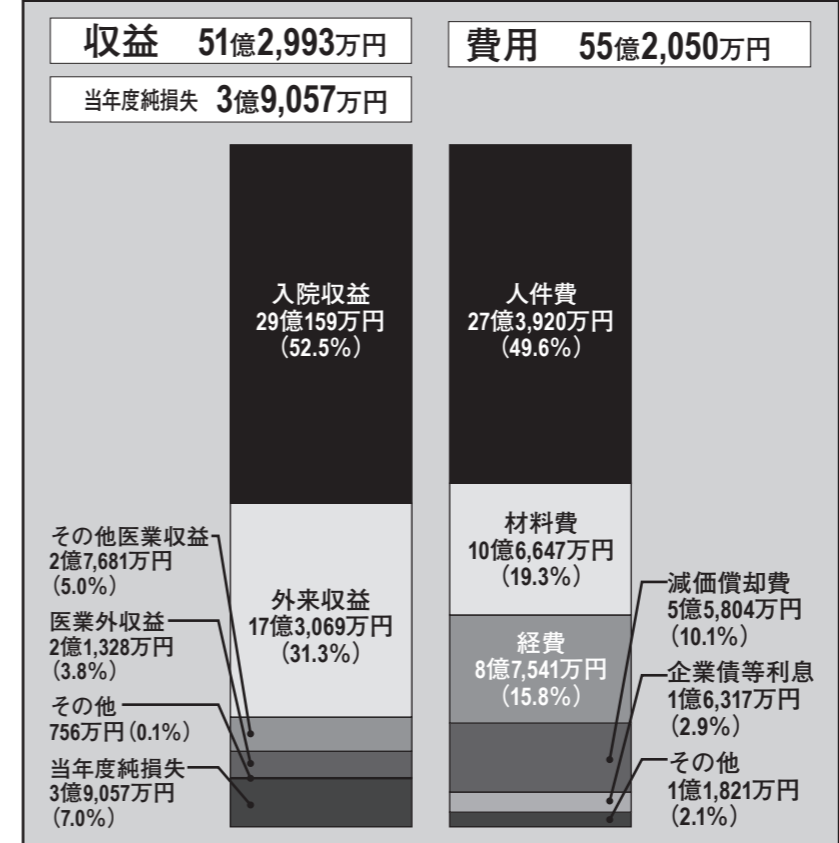
※この講演会の様子は田川市立病院ホームページでご覧になれます。

平成21年度

病院事業会計決算報告

平成21年度の病院事業は、入院収益の増加や各種経費の減などにより前年度決算より好転しました。しかし、依然として厳しい状況が続いており、引き続き診療体制の確保に努力していきます。

収益と費用 平成21年4月1日～平成22年3月31日



21年度の経営状況

平成21年度の患者数は、前年度と比べ、入院は1千666人減の9万4千448人。外来は2万6千140人減の16万9千212人でした。病院事業収益(収入)は51億3千732万円、病院事業費用(支出)は55億2千789万円でした。収益から費用を差し引いた純損失(赤字額)は、3億9千57万円となりました。

前年度と比較すると患者数は減少しましたが、形成外科や泌尿器科の手術が増えたことなどにより診療単価が上がり、入院収益は増加しました。また、院外処方実施による薬品購入費の減少や前年の原油高騰がおさまったことなどにより費用も減少した結果、赤字額は前年より減少しました。しかし、医師の減少は依然続いており、新病院開設時に比して3割近く減っており、この全国的傾向は早急に改善される見込みはなく、経営的

病院の現状

市立病院は、平成22年4月に地方公営企業法の全部適用という経営形態に移行しました。大きく異なる点は、市長に代わり新たに病院事業管理者が設置され、権限と責任が明確に分けられたことで経営的に独立性が強くなったことです。現在、地域住民の医療を守る公

立病院として存続を可能にするための経営基盤を整備することを目指し、「中期事業計画」を策定中です。この中で、具体的に田川市立病院が目指す方向性や経営方針を示すこととなります。詳しくは、「広報たがわ」でもお知らせいたします。また、地域の皆さんと職員一同が力を合わせて安心できる医療を提供していくため、今後もいろいろな広報活動を実施していく予定です。

病院をお金に換算 平成22年3月31日現在

資産 88億9,955万円	負債 13億7,221万円
固定資産 78億4,767万円	固定負債 1億1,142万円
流動資産 10億5,188万円	流動負債 12億6,079万円
	資本 75億2,734万円
	自己資本金 2億4,891万円
	借入資本金 89億5,484万円
	剰余金 △16億7,641万円
	※△はマイナスを表しています